



しずがたけ
「賤ヶ岳の七本やり」は、どんな人たちだったの



しばたかついえぐん
柴田勝家軍との賤ヶ岳の戦いで手柄を立てた、豊
とみがた
臣方の若武者たちだよ。

きんじゅう うまわり
近習や馬廻の若武者たち

「賤ヶ岳の七本やり」とよばれるのは、1583年の賤ヶ岳の戦いで手柄を立て、
かんじょう
感状（賞状）をあたえられた、近習（主君のそばに仕える役目）や馬廻（主君が
乗った馬の周りを守る役目）の若武者たちです。

ふくしまいちまつ まさのり
福島市松（正則、1561～1624年）：のち尾張（愛知県）清洲城主。
かとうとらのすけ きよまさ
加藤虎之助（清正、1562～1611年）：のち肥後（熊本県）熊本城主。
かとうまごろく よしあき
加藤孫六（嘉明、1563～1631年）：のち伊予（愛媛県）松前城主。
かたぎりすけさく かつもと
片桐助作（且元、1556～1615年）：のち攝津（大阪府）茨木城主。
わきさかじんない やすはる
脇坂甚内（安治、1554～1626年）：のち淡路（兵庫県）洲本城主。
ひらのごんべい ながやす
平野権平（長泰、1559～1628年）：大和（奈良県）田原本に領地をもつ。
かすやすけえもん たけのり
糟屋助右衛門（武則、1559～1626年）：のち播磨（兵庫県）加古川城主。

本当は「九本やり」だった

この7人のほかに、いしかわへいすけ かずみつ いしこ いしかわ
石河兵助（一光、石河・石川ともいう）・桜井佐吉（家一）
も、感状をあたえられたので、本当は「九本やり」でした。しかし、石河兵助は賤
ヶ岳で戦死し、桜井佐吉も、その後わりあい早く死んだので、後の世の人々は、こ
の2人はずして、「七本やり」とよぶことにしたようです。戦後、この9人はそ
れぞれ、3000石または5000石をあたえられました。そのうち、戦死した石
河兵助に対しては、弟にあたえられました。



5000石をもらった福島市松と加藤虎之助
は、どちらも秀吉の親類だったのよ。